

平成24年度 第23回関東高等学校バスケットボール新人大会

平成25年2月9日(土)

【女子】1回戦 緑が丘スポーツ公園体育館 Cコート 第3試合

千葉英和 (千葉県)	87	}	61	県立竜ヶ崎第二 (茨城県)
		{		
		27 - 12		
		13 - 24		
		20 - 12		
		27 - 13		

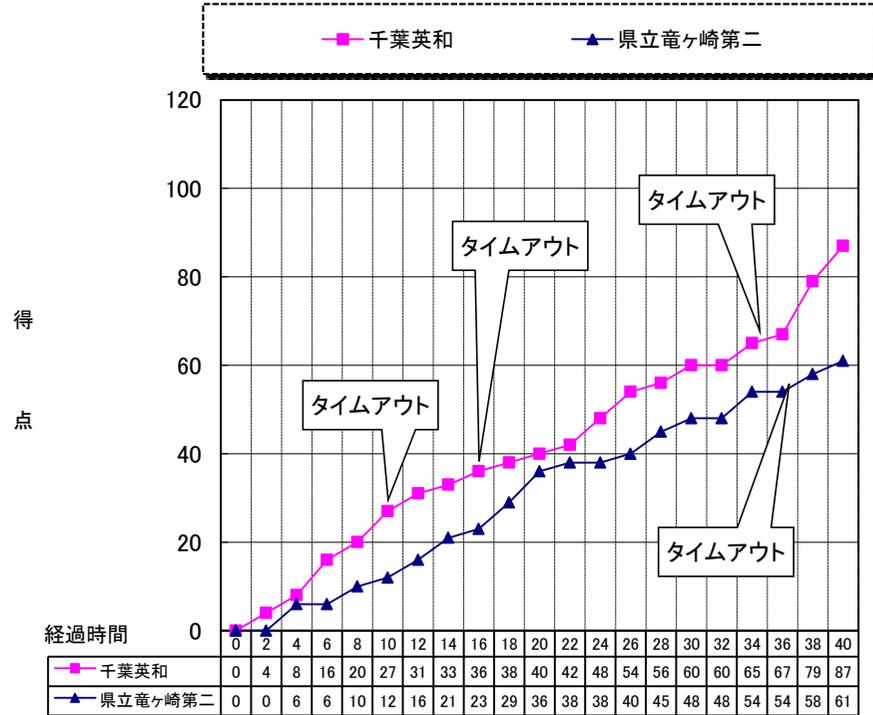
千葉英和

番号	氏名	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト	スティール	ブロック	ターンオーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4*	萩原 美穂	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	2	3	2	0	2
5*	星 香那恵	24	0	0	12	19	0	0	3	5	10	15	0	0	6	4
6	若松 優津	8	0	0	4	8	0	0	4	2	6	8	7	0	0	4
7*	月岡 優里	4	0	1	2	8	0	0	0	1	6	7	2	0	1	3
8*	古川 真子	14	0	0	7	13	0	0	0	2	3	5	2	1	0	4
9	春田 桃子	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	先崎 里南	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	山下 志織	4	0	0	2	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0
12	齊藤 由起	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ヘインツェル仁衣那															
14*	小林 優香	19	3	4	5	9	0	0	1	0	4	4	3	3	0	8
15	寺井あかね	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	2	1	1	0
16	神崎めぐみ	4	0	0	2	7	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
17	三浦シズホ悦詩															
18	笠井萌々子	6	0	0	2	4	2	2	2	3	3	6	0	0	0	0
HC	森村 義和/TEAM									2	4	6				2
チーム		87	3	5	38	75	2	4	11	18	41	59	19	7	8	27
*スターティングメンバー	確率		60.0%		50.7%		50.0%									

県立竜ヶ崎第二

番号	氏名	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト	スティール	ブロック	ターンオーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4*	渡邊 美央	20	0	1	9	25	2	2	3	0	2	2	2	2	0	3
5*	林 郁苗	2	0	0	1	4	0	0	2	2	0	2	0	1	0	0
6	菊池 棕子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7*	二宮 一稀	13	0	0	5	23	3	5	1	0	3	3	2	4	0	2
8	佐々木 幸乃	7	1	4	2	4	0	0	1	3	1	4	1	2	0	1
9	山中 綾華	6	1	9	1	2	1	2	3	2	2	4	1	2	0	1
10*	山口 晴加	3	1	3	0	1	0	0	1	2	1	3	3	0	0	0
11	銭谷 風菜															
12	杉山 加奈	2	0	7	1	3	0	0	4	2	0	2	1	2	0	0
13	阿部 明美	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14*	山口 実里	2	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
15	石塚 可菜	4	0	0	2	3	0	0	0	3	6	9	0	0	0	0
16	飯泉 ゆきの	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	佐藤 志保	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	大野 翔子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HC	宮田 宗典/TEAM									0	2	2				0
チーム		61	3	24	23	67	6	9	17	14	17	31	11	13	0	8
*スターティングメンバー	確率		12.5%		34.3%		66.7%									

2分毎による得点の推移



戦評

1Q、竜ヶ崎第二はオールコートのプレスを仕掛け、序盤から積極的なディフェンスをするが、千葉英和は速い展開のオフェンスで、⑤星を中心として得点を着実に重ねる。千葉英和の2-3のゾーンに対し、竜ヶ崎第二は④渡邊のドライブを中心に攻めるがリズムがつかめず、シュートも入らない苦しい展開となる。千葉英和27-12竜ヶ崎第二で1Qを終了。

2Q、竜ヶ崎第二はオールコートのマンツーマンからのスティールやブレイクなどが決まりはじめ、④渡邊を中心に得点を重ね追いつける。一方、千葉英和はシュートが決まらなくなり得点が伸びない。竜ヶ崎第二が4点差まで追いつき、千葉英和40-36竜ヶ崎第二で2Qを終了。

3Q、千葉英和の2-3のゾーンに対し、竜ヶ崎第二は外角からのシュートで攻めるが、なかなか決まらず攻めあぐむ。一方、千葉英和はブレイクや⑤星のジャンプシュートで得点を重ね、千葉英和60-48竜ヶ崎第二で3Qを終了する。

4Q、どちらのチームもなかなかシュートが決まらない状態が続く。竜ヶ崎第二はオールコートプレスから積極的にダブルチームを仕掛けるが、千葉英和は落ち着いてボールを選び、得点へとつなげる。竜ヶ崎第二は外角のシュートが決まらず、2-3ゾーンに苦しむ。残り時間3分で千葉英和がオールコートゾーンプレスを仕掛け、竜ヶ崎第二の追撃を許さず、千葉英和が87-61で勝利する。

主審	安西 郷史	第1副審	古本 菜津子	第2副審	—	記入者	中山 康成
----	-------	------	--------	------	---	-----	-------